

「他者を尊重する」

2016年10月15日(土)
 スペインバル・リリオ品川
 参加：15名
 司会・文責：野田

1. 概要：

- ・初参加者6名を含む総勢15名で他者を尊重するとはどういうことか、主に公平、平等、対等の観点から考えました。

2. 対話：

- ・今回のお題について司会者が、「基本的人権の尊重といった、抽象的なものを尊重することではなく、人や人に関連する行為などを尊重すること、特に自分ではない他者が尊重される場合について考えます。」と説明した。
- ・具体例1:職場で後輩に対して指導する場合、どこまで踏み込んでいいのか、ルールや価値観を押し付けることにならないかということが気になる。押し付けることが、尊重しないことにつながるかもしれない。
- ・具体例2:意思決定を行う権限を有する職位のものが、会議において全参加者の意見を聞く機会を設けるようになった。意見を聞いて、参加者全員を決定過程に関与させることで、参加者を尊重している。
- ・具体例3:飲食店に複数人のお客が入った時に、あるお客だけコップのお水が配られない場合、その客は尊重されていないことになる。尊重とは、～として当然の扱いを受けるということである。
- ・他者を尊重する、といった場合、人そのものを尊重するという意味にとらえられる。しかし、よく考えてみても、人そのものを尊重することとはありえないように感じた。本質的に、他者の行為を尊重する、のように、他者の何かを尊重することしかできないと考える。
- ・具体例2から明らかなように、尊重されるのは個々の参加者であり、意見ではない。個人が意見を言う機会を作ることが個人を尊重することであり、意見を言わないこともあり得るからだ。
- ・具体例3から明らかなように、人として、客として、など、～として当然の扱いを受けることが尊重されるということである。この考えの背後には、平等、公平、対等という概念がある。誰しもが他人と平等に、公平に扱われたい、またお互いに対等な立場で尊重しあうべきであり、全ての人間は等しく尊重されるべきだという考えを持っており、尊重という概念は、この考え方を支持するものだ。他者の～を尊重するというのは、尊重するという個々の行為において、結果として対象として生じているだけである。
- ・自分を尊重できないと、他者を尊重できない。尊重は、他者と自分を対等に扱うことを要請する。
- ・尊重するとは、尊び、重んじ、大事にすることである。
- ・立場の強いものが、老人や障害者など、立場の弱いものを尊重することが多い。すべての人が公平に尊重されていれば、立場の強いもの、弱いものがそもそも生じない。すべての人を公平に尊重することは実際には難しいため、立場の強いもの、弱いものが生じる。世の中は冷たいが、その中で自分が自分として生き抜いたことで、自分を尊重できるようになり、他者を尊重できるようになった。
- ・尊重するとは、ありのままを聞き入れて、受け入れ、認めることである。余計な介入をしないことである。自らとの差異を埋め合わせて、違いがあることを認めることである。同意することではない。自分と異なる意見を聞き入れる余裕と力が必要である。従って、立場の強いものが、弱い立場のものを尊重することが多い。
- ・他者の意見を尊重するとは、他者の意見の価値を吟味し、再確認することである。

3. まとめ：

- ・身近な具体例から初めて、社会における強者と弱者の立場にまで視野を広げて、尊重について考察しました。多くの場合、他者の立場と自分の立場の両方を配慮することが尊重の背後にあるようです。一方、自分を尊重することにも言及がありました。自分を尊び、重んじ、大事にすることが、自分を尊重することのようです。
- ・初参加の方から、多様な意見を持っている参加者が、他の参加者に対して気兼ねなく自由に各々の意見を発言できる雰囲気であり、この哲学カフェはまさに個人を尊重しているように感じたという、ありがたいお言葉を頂きました。頂いた言葉を実現していけるように心がけていきたいと思います。

以上